

最近、話題となったドラマといえば、誰が何といおうと「恋はつづくよどこまでも」でしょう。このドラマは、看護師・七瀬(上白石萌音さん)と医者・天堂(佐藤健さん)のラブストーリーで、見逃し配信ではTBS 史上最高の283万回再生を記録して、あの「逃げ恥」をも越えたと聞きました。生徒の皆さんの中には、毎回キュン死していた人も多いのではないのでしょうか。

七瀬のように、恋をして相手のことをいろいろ考えることで、私たちは人間関係における重要なスキルを身に付けることができます。「恋」は、私たちの「相手の気持ちを想像する」スキルを格段に上げてくれるのです。そして、このスキルは、仕事においても家庭生活においても、最強かつ最高のスキルだと私は断言できます。

ですから、生徒の皆さんには、ぜひ「恋」をしてほしいと思います。もちろん、素敵な人に恋することも大事ですが、「恋」は人に対してだけするものとは限りません。「恋」をする、好きになるということは、私たちを突き動かす最高の原動力になります。あなたにとって、ドキドキするもの、心を動かすもの、嬉しくなるもの、幸せになるものは、いったい何ですか。

私がつぶん3、4歳の頃だと思います。自宅の薄暗い庭に咲いている黄色の花が気になり、しゃがみこんでじっと眺めていると、祖父が「それは、エビネというんだよ。」とその花の名前を教えてくださいました。それ以来、私は花を始めとする植物のことが大好きになり、野山を駆け回ってランやスマレを探すことに夢中になりました。花を探しに出かけるときは、ただもう嬉しくてたまりませんでした。また、自分が知らない花を見つけたときには胸がドキドキし、今思えば、まさしく私は、植物に「恋」をしていたのだと思います。

小学生の時には、「自分は野山を歩いて植物を見るのが好きなので、国立公園の監視員になりたいです。」という作文を書きましたし、高校生になると、地元で自生しているスマレをアルバムに収め、周りの人に見せたりもしていました。こうやって思い出すと、子どもの頃の私は、植物に触れ合うことが大好きで、植物の魅力を他の方々にも伝えたいと思っていたようです。そして今、私は教員をしていますが、今も変わらず胸躍らせながら植物と触れ合い、その魅力を生徒の皆さんをはじめ多くの方々に伝えようといういろいろな形で発信を続けています。

私は伊予農の校長として、進路決定においては、生徒の皆さんにまず「ゴール」を設定してほしいと思っています。ゴールにたどり着くまでのルートは、ただ1つではありませんが、とにかく自分の「ゴール」を考えてほしいのです。でも、この「ゴール」は、大抵の人が思っているように「職業」ではないと私は思います。例えば、「警察官になる」はゴールではなく、「警察官になって〇〇したい」がゴールなのです。(〇〇には、人を助ける、安全な世の中にする等が入ると思います)。つまり、ゴールとは「〇〇したい」という自分がかねえたい夢であり、職業選択はあくまでもその手段なのです。私の場合でいえば、ゴールは「植物の魅力を伝えたい」であり、手段が「教員」という職業でした。さらに、教員を続けることにより「生徒の成長を見守る人間になりたい」という夢も芽生えてきました。

ゴールがまだ決められない人は、まず、自分の「ドキドキ」を見つけたいと思います。「ドキドキ」を見つけるためには、「ドキドキの原体験」を探すということが有効です。原体験とは、自分の過去・現在において、何にドキドキしているか(つまり、何に恋をしているか)ということです。自分が熱くなれた原体験には、ゴールを決めるヒントが隠れているに違いありません。例えば、私の原体験は、もちろん「エビネをじっと眺めた」ということでした。私は、教員になって初めていただいたボーナスをすべて使って、「雪姫」という白いウチョウランを一鉢買いました。現在も「雪姫」を交配親に用い、品種改良を続けています。毎年新たに誕生する花々が、とにかくいとおしくてたまりません。またその花を見て喜んでいただく多くの方の笑顔を見ることも、嬉しくてたまりません。私の植物に対する想いは、まさしく「恋はつづくよどこまでも」なのです。